



「NWSトップアスリート選定のための公開会議」

開催日時：10月24日（水）13:30～14:45

主催者：（一社）健康ビジネス協議会 サービス・交流部会

概要

1. NWSプロジェクトの取組について

（一社）健康ビジネス協議会

サービス・交流部会長 佐藤 巧

NWS(Niigata of Ween the Sports Support System)は、新潟から世界で活躍するトップアスリートを輩出し続けることを目的としたプロジェクトである。トップアスリートが活躍するには、練習環境の整備や様々な不安を取り除くことが重要と考え、5年前に構想を立ち上げた。当初はウィンタースポーツを対象としていたが、期待の持てるスポーツ全般に対象を広げ、現在はスケートボードをモデルとしている。

この構想をプロジェクト化して3年目となり、これまでは選手の周辺環境を整えるため、移動式スケートボードセクションの製作や行動規範の作成に取り組んできた。今年度は、資金面で選手を支援できるシステム作りに取り組んでいる。具体的には、支援対象となる選手をNWSトップアスリートに選定し、300万円を資金援助する予定である。また、当協議会会員から寄付を募り、平成30年12月9日にスケートボード大会を開催する。これを集大成として、本プロジェクトは今年度で完結するつもりである。

NWSトップアスリートの選定にあたり、NWSプロジェクトの運用先である（一社）日本スケートボーディング連盟(JSF)が開催するスケートボード大会3戦に加え、12月9日の大会結果を考慮する。選定基準や選定委員は既に決定しており、選定委員はスキル等の技術面を判断する委員と、道徳等の内面性を判断する委員に分かれる。認定後は、まずNWSが資金を援助し、選手が練習に集中できる環境を用意することで成長してもらいたい。最終的には、スポンサーになりたい企業が出て来る、という形に結びつけられればと考えている。

現在、世界を目指して頑張っている子どもたちが日の目を見ていない印象を受ける。選手の頑張りは、地域の活性化や観光振興につながる。周囲の大人が理解を示し、バックアップしていくことが重要であり、その道筋をつくっていききたい。



2. NWSトップアスリート選定に向けて

（一社）日本スケートボーディング連盟

理事 東海林 渉氏

今年度、当連盟はスケートボード大会を2戦開催した。いずれもパーク種目であり、オリンピックの競技種目である。制限時間内で様々な技を繰り出し、ベストスコアで争う競技である。男子は15歳前後～20歳、女子は9歳など若い選手が多い。会場によってスケートパークの形状が異なるので、パークの特徴をつかみ、いかに上手く技を繰り広げるかも重視される。今後開催予定の二つの大会結果も踏まえ、支援対象選手の絞り込みをしていく。トップアスリートには他の選手の模範となるべき人物像であることも求められるため、スキルなどの実力だけでなく、多角的に選定を進めることとなる。



この他、当連盟では専属の映像スタッフが大会の様子を撮影し、SNS等での発信にも取り組んでいる。動画にはドローンを駆使するなど今までになかった映像も取り入れており、海外からのアクセスもある。選手の滑りが多くの目に触れるよう工夫しているので、このアプローチがスポンサーや大会へのチャンスに結びつけば良いと考えている。他にも、イベントの開催などスケートボードの普及活動もしているので、様々な面から選手をサポートしていきたい。

3. 意見交換

NWSプロジェクト委員で、今後のNWSトップアスリート選定に関して意見交換を行った。意見交換の結果を踏まえ、選定を進める。

<意見の概要>

- 世界と戦える選手には、メンタル、人間力、資質が重要である。
- 若い選手もいるため、年齢によっては選手本人だけでなく、親の面談があると、なお良い。
- 大会に出場する選手は、若ければ10歳未満の子どもたちもいる。義務教育を休まなければならない場面があるため、そこをカバーできる支援方法があると良い。
- 一番のびしろの大きい子にできるだけ支援したい。
- 選ばれた選手は、スケートパークなどの施設で職員として働けるようになれば良い。インストラクターとして教室を開くなど、就業の場を提供したい。